

# 日野郡農林業の概要



平成27年12月

鳥取県西部総合事務所  
日野振興センター日野振興局

表紙写真：

水稻（江府町H24.9.5撮影）と「日野郡の米」ロゴマーク（H23年日野郡産米レベルアップ推進協議会製作）

## はじめに

日野郡は鳥取県の南西部に位置し、標高約200～600m付近で農林業が営まれる中山間地帯である。大正時代まで「たたら」が栄え、製鉄業に携わる人々によって、農業や林業も支えられてきた。

大山山麓に広がる丘陵地と谷あいの農地では、日当たりのよさと豊富な水を利用して、古くから良質米が栽培されており、郡産米は消費者の評価も高い。とりわけ、平成15年から始まった郡域の「源流米コンテスト」、江府町における「プレミアム特裁米」、日野町や日南町での「海藻米」など特色ある米づくりにも取り組まれている。

近年、米価の下落にも対応できるよう、農業法人や集落営農の組織化も進んでいるほか、白ねぎ、ブロッコリー、ピーマンなどの園芸品目の導入も徐々に広がりつつある。新規就農者は、日南町において平成21年度に町農林業公社（現：一般財団法人）による研修体制が先行して整備されたのをきっかけにIターン者が増加した。江府町、日野町でも地域おこし協力隊を積極的に受け入れており、IJUターンの動きは従前よりも活発になってきている。

森林に目を向けると林野率が88%で、管内の林野面積は県下の20%を占めている。スギ、ヒノキは7～12齢級に集中しており、間伐などの保育活動を推進し、資源を有効に活用していくことが課題である。林業従事者は高齢化などの問題はあがあるが、前述の日南町における研修体制や「緑の雇用」を活用した新規就業を進められている。平成20年に創業を始めた(株)オロチでLVL製造が開始されたことにより、郡産木材が高次加工される体制が整い、地元での雇用も創出されている。

森林資源はバイオエネルギーとして大きく注目されており、農業用園芸ハウスでの熱源としても応用を検討中である。日南試験地で試験導入され、トマトの促成栽培に一定の効果が見られた薪ストーブは、郡内の農林家でも導入が始まっており、トマト以外にもシイタケやほうれんそうへの活用も予定されている。

鳥獣被害に関しては、イノシシによるものはかなりあるが、県東部の状況に比べればコントロール可能な状況である。しかしながら、シカやサルなどが県境を越えて、出没するようになり、猟友会が対応していないアナグマやタヌキの被害も拡大しつつある。日野郡では3町と県が連携して、平成25年度に「日野郡鳥獣被害対策協議会」が発足した。同26年度には実施隊が結成され、鳥獣被害の拡大を食い止めるべく、精力的に活動を進めている。実施隊は地域おこし協力隊などが中心となって組織されており、今後、その活動の充実と自在の定着に向けた取り組みが必要である。

日野郡の農林業を取り巻く情勢は、高齢化や人口減少の波をいち早く受け、厳しい状況であることは変わらない。その中であつても、活路を見い出しながら、中山間地域のモデルとなるような農林業が随所で営まれているのが特色である。

## 目次

	ページ
1 農業マップ .....	1
2 林業マップ .....	3
<b>3 農業の現状と取組</b>	
(1) 就農構造 .....	5
(2) 担い手の状況 .....	6
(3) 土地利用の状況 .....	7
(4) 農業基盤の整備状況 .....	7
(5) 主な農畜産物の生産販売状況 .....	8
(6) 特別栽培農作物等の取組状況 .....	11
(7) 鳥獣被害と対策 .....	12
<b>【参考データ】 農業産出額及び生産農業所得 .....</b>	<b>13</b>
<b>4 森林・林業の現状と取組</b>	
(1) 日野郡の森林の現状 .....	14
(2) 間伐の推進 .....	15
(3) 木材価格の推移 .....	16
(4) 地域材の供給 .....	16
(5) 森林路網の整備 .....	18
(6) しいたけの生産 .....	19
<b>5 日野振興センター農林関係担当課 .....</b>	<b>20</b>

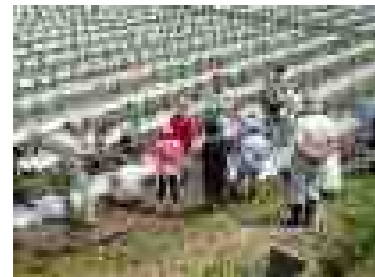
# 1 農業マップ



**【夏秋トマト】**  
 冷涼な気候を活かした美味しいトマトが生産されている。中古ハウスの有効利用、販売対策等を積極的に行っている。  
 平成27年には、「日南トマト」の地域団体商標が登録されました。新たに平成23年5名、平成24年は1名、平成26年は1名、平成27年は2名の農業研修生が、研修を終えて栽培に参入している。



**【ブロッコリー】**  
 県内西部産地のリレー出荷の中で冷涼な気候を活かし、比較的高温期の出荷が期待されている。



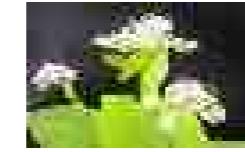
**【夏秋ピーマン】**  
 冷涼な気候を活かし、夏秋ピーマンの栽培が行われている。



**【日南高原朝どれ野菜生産部】**  
 少量多品目の新鮮な野菜や山菜を持ち寄り、岡山県方面のスーパーマーケットに直送している。



**【日野郡の米】**  
 日野郡はおいしい米の産地として知られる。「米・食味分析鑑定コンクール:国際大会」の都道府県部門内での金賞受賞者あり  
 郡内では、さらにおいしい米を作る方法の研究に取り組むグループ等が立ち上がっている。



**【そば】**  
 郡内各地でそばの栽培が盛んに行われ、土地利用型作物として重要な位置づけとなっている。



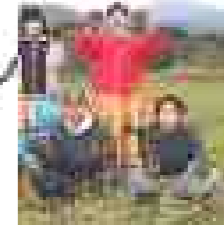
**【直売所から始まる地域活動】**  
 学校給食への農産物供給など、地産地消活動の拠点となっている。  
 (江府町 みちくさ)



**【奥大山ブルーベリーファーム】**  
 西日本でも最大規模の観光農園として知られ、6次産業化(農業者が加工品の関係・販売等をする)にも進めている。(江府町 笠良原地区)



奥大山ブルーベリーファーム



**【江府町のコンニャク栽培】**  
 中山間地域の新たな目玉としてコンニャク産地づくりに取り組んでいる。



**【白ネギ】**  
 冷涼な気候を活かした夏ネギ栽培がさかんである。  
 栽培経験の浅い生産者を対象に栽培基礎講座を開催している。



**【地域産物を活用した加工品開発】**  
 農産物の資源や伝統を活かした加工品づくりが盛んである。  
 加工の目玉は鈴原糯(すずはらもち)。栽培しにくい品種だがモチ質は抜群！  
 (日野町 大夢多夢)



地域特産品のトマトを使ったトマトジュースは、定評あり！(日南町)

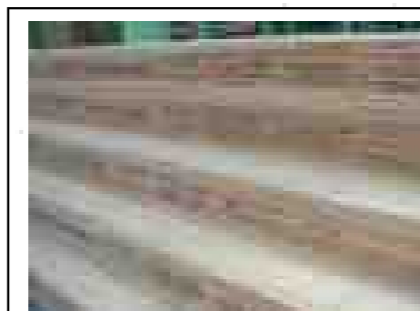


**【和牛放牧場】**  
 5月～10月にかけて和牛の放牧により、和牛農家の手間が減り、牛の健康も増進されている。

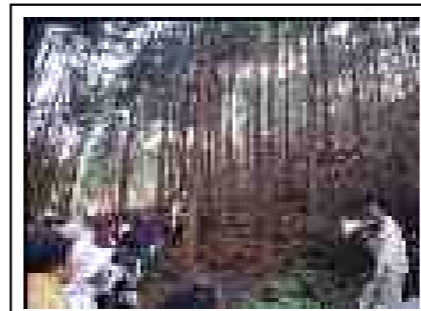
## 2 林業マップ



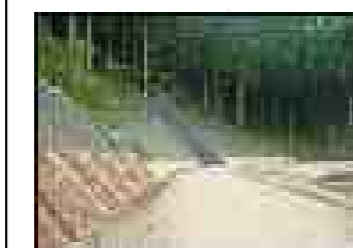
**【日野川の森林木材団地】**  
日野川流域の総合木材流通加工拠点。(株)オロチ、(株)米子木材市場、山陰丸和林業(株)が進出。(日南町下石見)



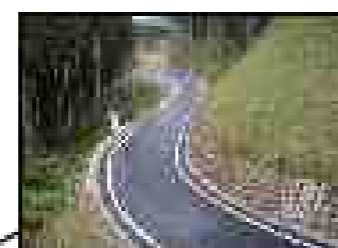
**【日野川流域材の活用】**  
地元のスギを使用したLVL(単板積層材)製造工場が完成。H20.4から操業開始した。(日南町下石見 (株)オロチ)



**【森林環境保全税の活用】**  
放置され手入れができていない森林を強度間伐し、公益的機能の回復を行っている。



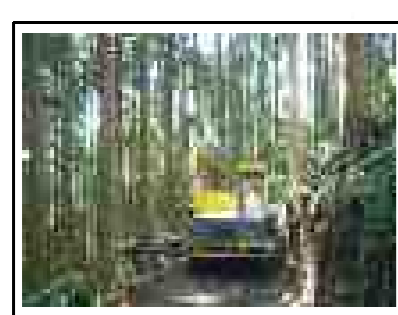
**【公共事業での木材利用】**  
木材の需要拡大のため、行政が率先して木材を使う工夫を行っている。林道では法面の草抑えとして利用している。(日南町上萩山林道窓山線。左は(株)オロチが排出する剥き芯を利用。)



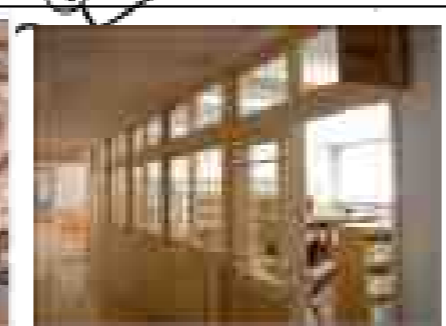
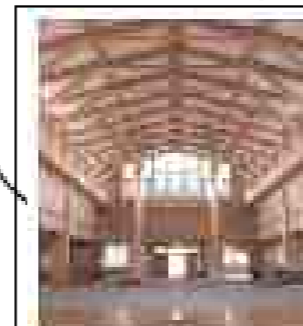
**【とっとり共生の森】**  
○天然水の森 奥大山(江府町)  
…サントリー(株)  
○ごうぎん希望の森・奥大山(江府町)  
…山陰合同銀行  
○とっとり日通の森(日南町)  
…日本通運(株)  
県・市町村が企業と地元の架け橋となってできた共生の森において、森林の保全活動、体験学習を行っている。



**【板井原県有林】**  
537haの森林。森林認証(SGEC)をH16年に取得し、環境に優しい施業を実践。H22にカーボンオフセットを推進するため「鳥取県県有林J-VERプロジェクト」の認証を受け、企業等に販売している。(日野町板井原)



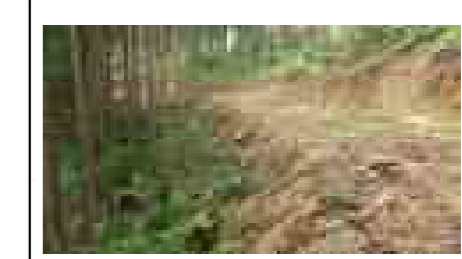
**【低コスト林業モデル団地】**  
施業の団地化、路網の高密度化と崩れにくい作業道を組み合わせ、伐採搬出コストを削減するためのモデル的取組みを行っている。(日南町下石見)



**【日南町庁舎・日南小学校】**  
地域で生産・加工された木材を使用した木造公共施設。地域材利用のシンボル。日南小学校には(株)オロチのLVL使用。(日南町霞)



**【林道の整備】**  
宝仏山及び窓山周辺の森林整備を進めるため林道を開設している。完成した林道は、森林に親しむ道としても広く利用されている。(日野町金持)



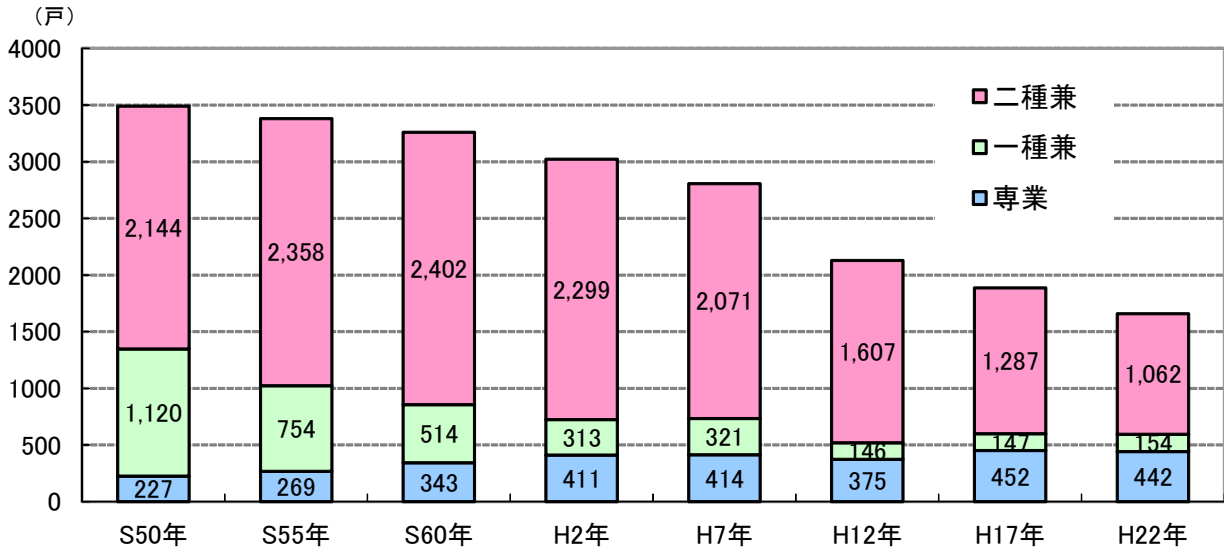
**【鳥取式作業道の推進】**  
災害に強く、長期間の使用に耐えるように、転圧等丁寧な施工と、早期緑化を行うための表土ブロックを施工する作業道の作設を推進している。

### 3 農業の現状と取組

#### (1) 農業の就業構造

○農家戸数は年々減少しているが、専業農家数は増加している。

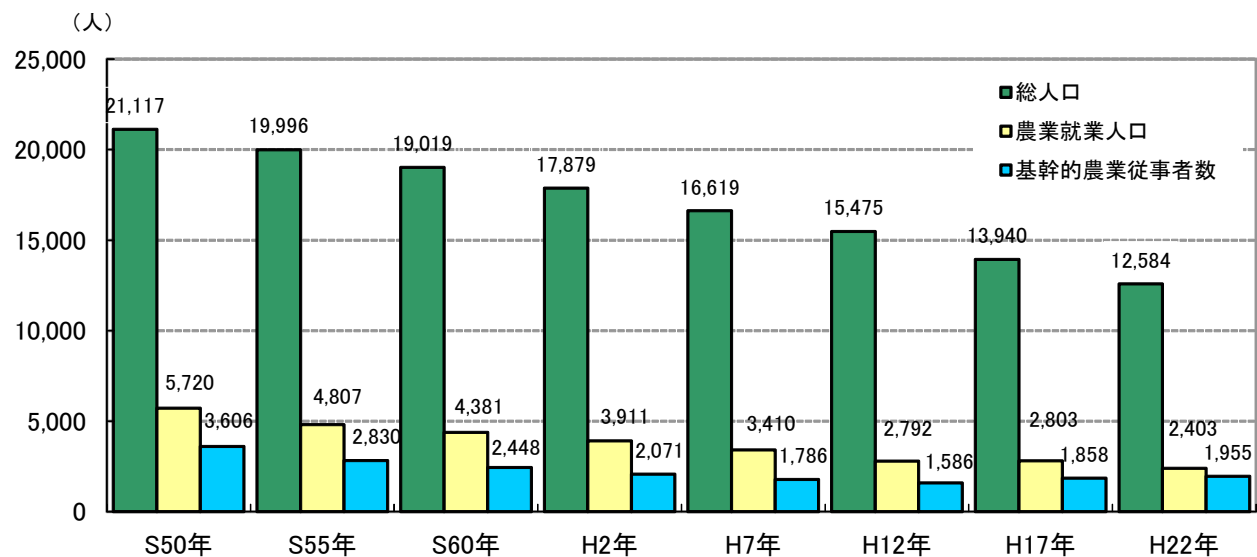
#### 日野郡専業兼業別農家戸数の推移



出展：農林業センサス（2010）

#### 《参考》

#### 日野郡の総人口、農業就業人口、基幹的農業従事者数の推移



出展：農林業センサス（2010）及び鳥取県勢要覧

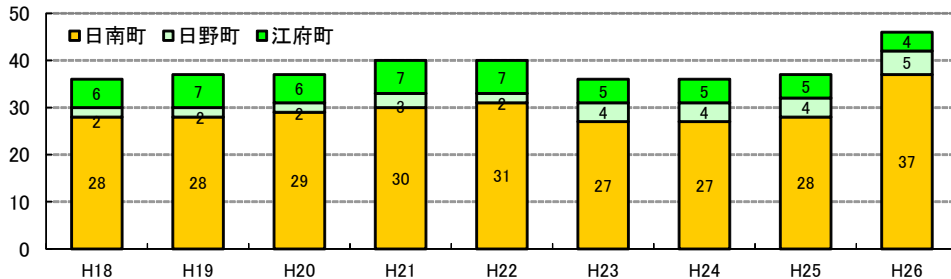
注1）農業就業人口とは、自営農業従事者のうち、農業が主である者（兼業で農業が主である者も含む）をいう

注2）基幹的農業従事者数とは、農業就業人口のうち、ふだん仕事として農業に従事している者をいう

## (2)担い手の状況

○平成26年度は、日南町で新規認定9件あったが、日野町、江府町ではほぼ横ばいである。

### 認定農業者数の推移



※日野振興局調べ

○郡内3町の組経営体化数は少ないが、近年は、高齢化による労力不足の対策として組織化を検討する動きがある。

### 農業経営体数

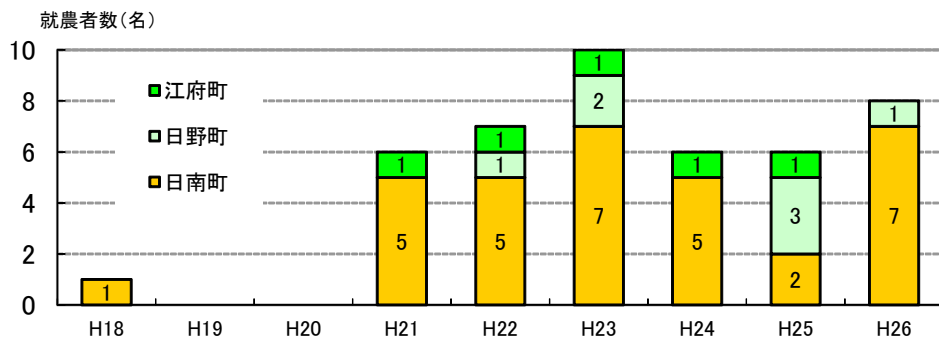
	農業 経営体数	農業経営体 のうち法人化数	農業経営体 のうち任意組織数
日南町	879	6	13
日野町	329	0	5
江府町	495	1	5

※農業経営体数は平成22年、法人化・任意組織数は平成26年データ

出典：2010年農林業センサス、平成26年集落営農実態調査

○平成26年度の新規就農者数は日南町7名（うち法人等就業者6名）、日野町1名（うち法人等就業者0名）、江府町0名の8名となっている。

### 新規就農者の推移



※経営支援課調査取りまとめ（平成26年度）

### 【参考】

○日南町においては、平成21年度から地域振興公社（平成25年4月1日から「一般財団法人エナジーにちなん」へ解散再設立）が主体となり2年間の農業研修制度を開始。

平成21年度：8名研修 ⇒うち7名が平成23年度から就農。

平成22年度：4名研修 ⇒うち1名が平成24年度から就農。

平成23年度：1名研修

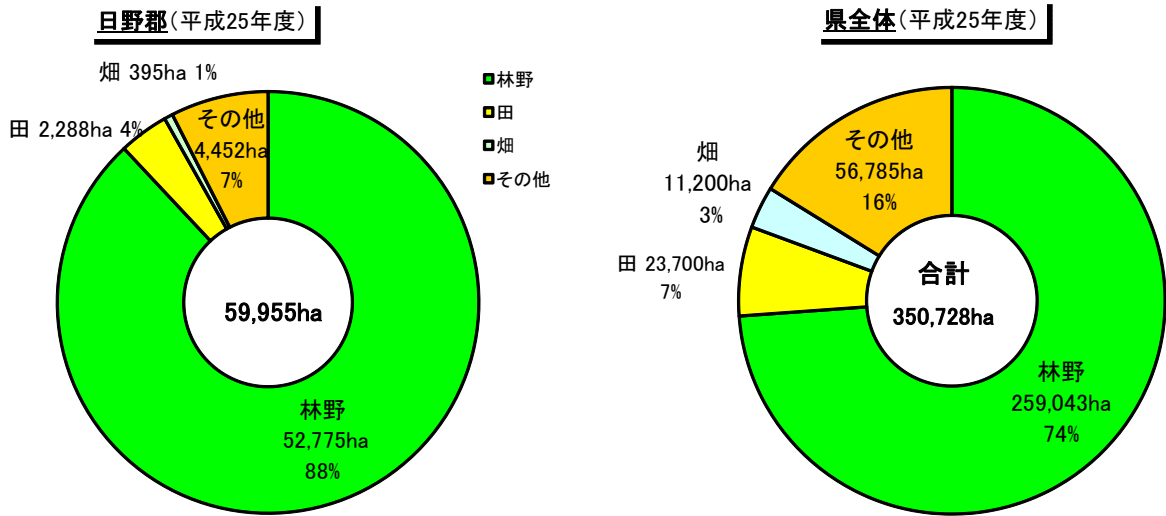
平成24年度：3名研修 ⇒うち1名が平成26年度から就農。

平成25年度：3名研修 ⇒うち2名が平成27年度より就農。

平成26年度：3名研修

### (3)土地利用の状況

○林野率は88%と、県の74%に比べて高い。



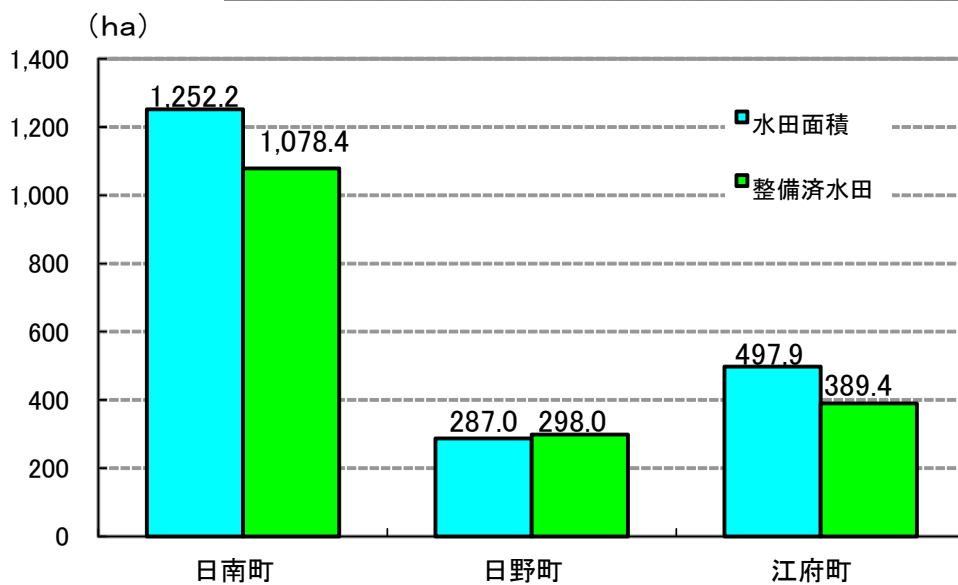
出典：鳥取県林業統計、及び 鳥取農林水産統計年報 中国四国農政局統計部 平成24年～25年

### (4)農業基盤の整備状況

○日野郡の水田整備率は、日南町86%、日野町104%、江府町78%である（県平均85%）。

○整備済水田面積は昨年と同じであるが、農振農用地の面積が減少しているため、水田整備率が上昇している。

#### 農振農用地の水田面積と基盤整備状況(平成25年度)



出典：平成26年度ほ場整備率調査結果



## (5) 主な農畜産物の生産販売と取り組み

### ① 水稲

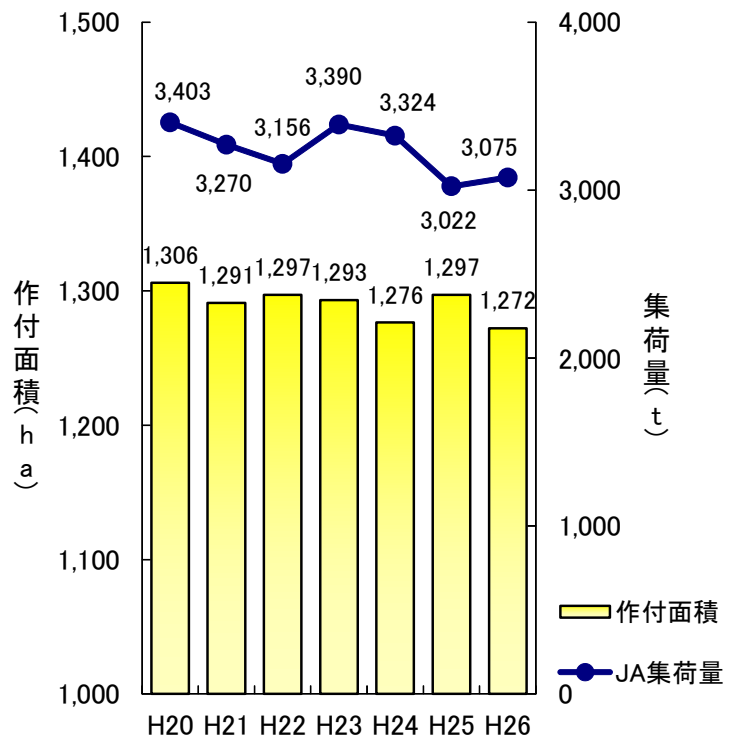
#### 【栽培面積・集荷量】

○日野郡の水稲（加工米を含む）作付け面積は、約1,300haである。主食米のうちJAへの出荷量は、3,000～3,400tで推移している。また、近年は主食米以外の加工米等の作付けが増加傾向にある。

#### 【生育状況・作況】

○平成26年度は、8月の日照不足やいもち病の被害が発生した。作況指数（平年＝100）は97（県作況指数97、全国作況指数101）となった。

### 水稲の作付面積とJA集荷量の推移



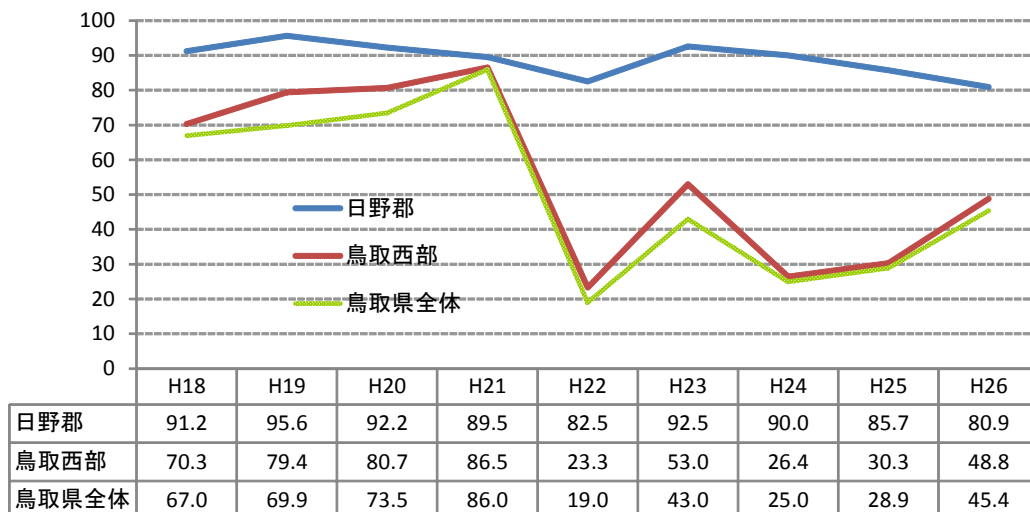
出典：集荷量は平成27年度JA鳥取西部資料より、

作付面積は鳥取県農業再生協議会総会（平成26年12月）資料より

#### 【1等米比率】

○平成26年度の1等米比率は日照不足により県内の比率が低下するなか、日南町93.2%、日野町90.3%、江府町83.8%と高い水準を維持している。（県平均45.4%）

### 一等米比率の推移(うるち米) (%)

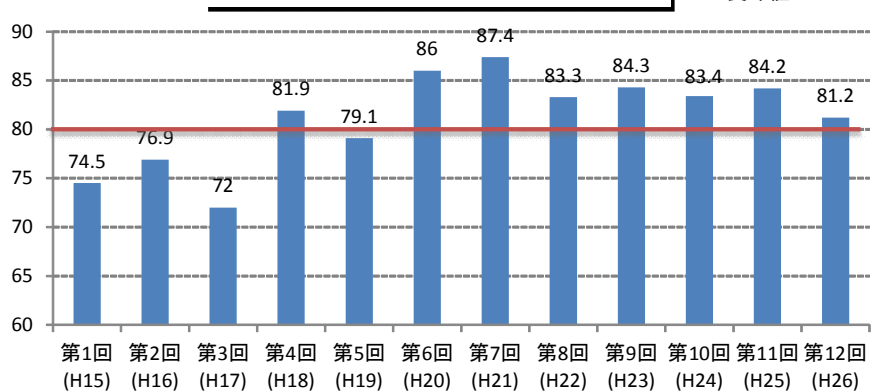


出展：農林水産省 米穀の農産物検査結果（平成26年3月31日速報値）及び平成26年度日野郡産米改良協会資料

### 【食味値向上の取り組み】

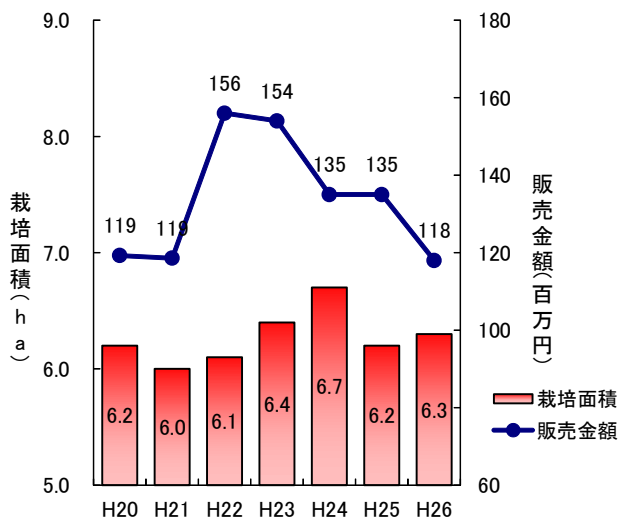
- 日野郡の特徴である「おいしいお米」をさらにレベルアップさせるため、平成15年から日野川源流米コンテストを開催。
- 平成20年以降は、良食味米の生産技術が定着したため、コンテストにおける平均食味値は、おいしいとされる80以上である。

日野川源流米コンテスト平均食味値



※日野振興局調べ

トマトの栽培面積と販売額の推移



出典：JA鳥取西部資料（平成27年度）

### ② トマト

#### 【栽培面積・販売額】

- 平成26年度の栽培面積は、日南町5.6ha、江府町0.7haである。平成23年度から新規就農者が加わったことにより栽培面積は増加したが、平成25年度以降は高齢化に伴う規模縮小の影響が大きく、再び減少に転じた。

#### 【産地の取り組み】

- 日南町では、平成23年度に選果場が再整備（色彩選別機導入）された。

### ③ 白ねぎ

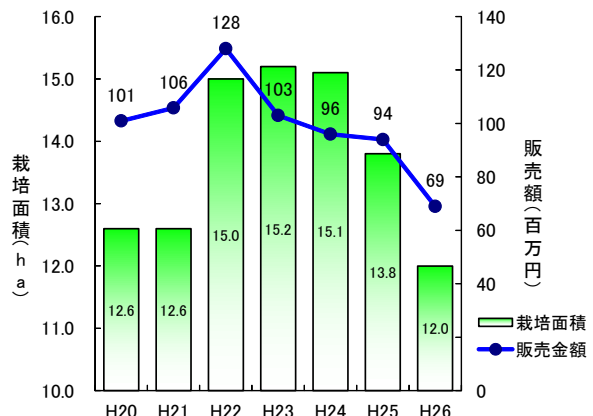
#### 【栽培面積・販売額】

- 平成26年度の栽培面積は、日南町6.3ha、日野町1.4ha、江府町4.3haである。販売額は平成25年、26年は高齢化による栽培面積の減少の影響等により減少している。

#### 【産地の取り組み】

- 平成24年度、JA鳥取西部中心に白ネギを振興するプランが作成され、生産者の確保や栽培面積拡大の取り組みが新たに始まった。

白ねぎの栽培面積と販売額の推移

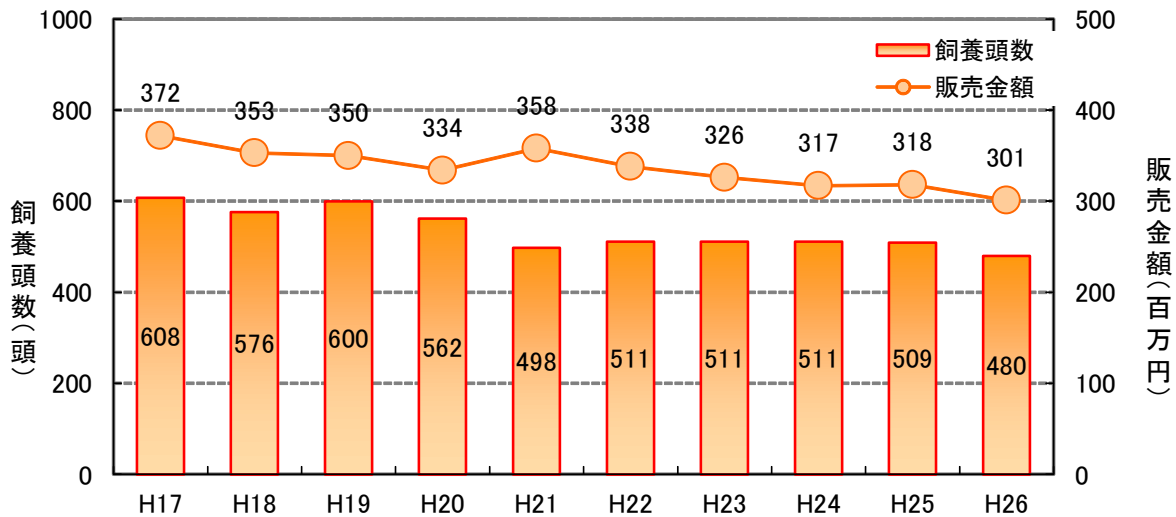


出典：JA鳥取西部資料（平成27年度）

#### ④ 乳用牛（牛乳）

- 生乳は、平成17年から全国的に生産過剰基調となり、平成18、19年と生乳の減産となる生産調整が実施され、日野郡内の飼養頭数は減少し、平成20年に入って生産調整は解除されたが、現在も回復には至っていない。
- 平成26年度は、飼養頭数がやや減少し、販売金額もやや減少した。

#### 乳用牛（牛乳）の年次推移

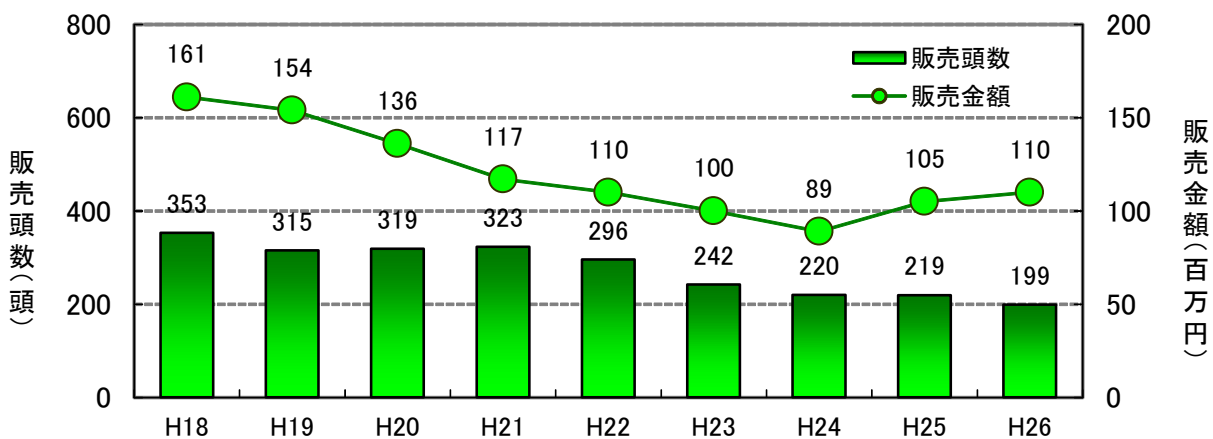


※大山乳業聞き取り

#### ⑤ 和牛子牛

- 日野郡内では、平成13年から取り組んだ優良雌牛導入事業の成果により牛群改良が進み、さらに全国和牛能力共進会が県内で開催された影響もあって、子牛の販売単価は高値で推移してきた。
- 平成20年の後半からは、景気の後退を反映して価格が低下していた。
- 平成22年以降は宮崎県の口蹄疫及び東日本大震災の影響により、全国的な素牛不足のため単価が上昇し、平成25年度は単価が50万円代で推移したため、販売金額は増加している。

#### 和牛子牛の年次推移



※JA鳥取西部聞き取り

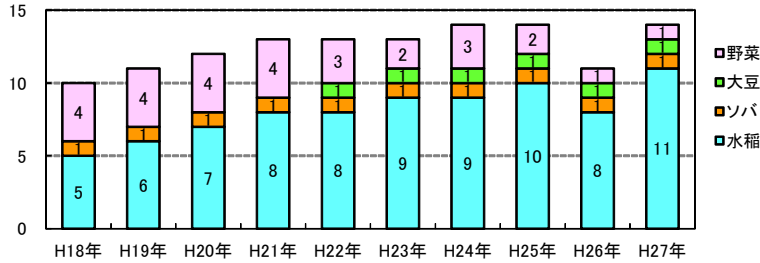
## (6) 環境に優しい農業の取り組み状況

### ① 特別栽培農産物登録

○鳥取県特別栽培農産物登録件数は、10件から14件の間で推移している。

○面積は水稲、ソバが多い。栽培面積は、近年横ばい傾向である。

#### 特別栽培登録件数

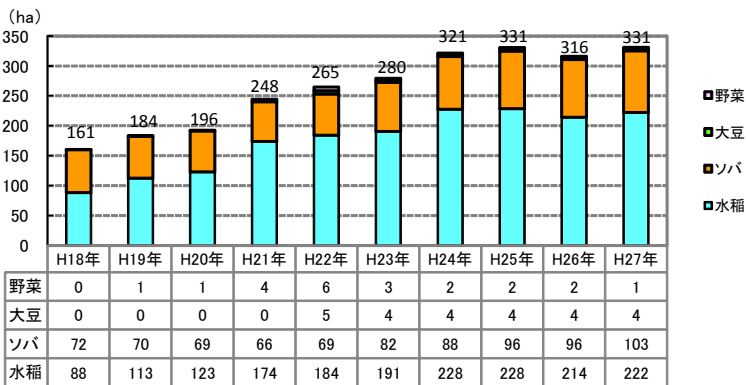


※平成27年10月末日野振興局調べ

注1) 特別栽培農産物とは、農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に従って生産された、化学合成農薬及び化学肥料の窒素成分を慣行レベルの5割以上削減して生産した農産物をいう。

#### 特別栽培面積

(棒グラフ上の数値は、合計面積)

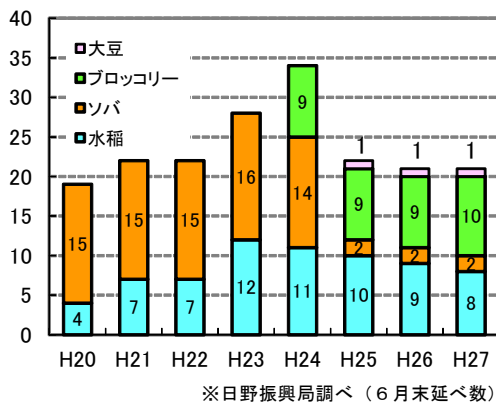


※平成27年10月末日野振興局調べ

### ② 持続性の高い農業生産方式に関する計画

○平成24年をピークに、ここ近年は横ばいで推移している。

#### エコファーマー認定数

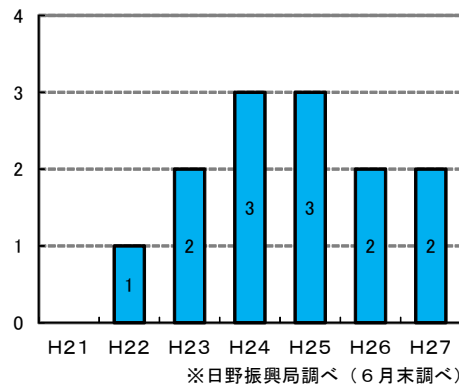


※日野振興局調べ(6月末延べ数)

### ③ 有機JAS認定

○H27は2名の生産者が水稲、エゴマで認定を受けている。

#### 有機JAS認定数



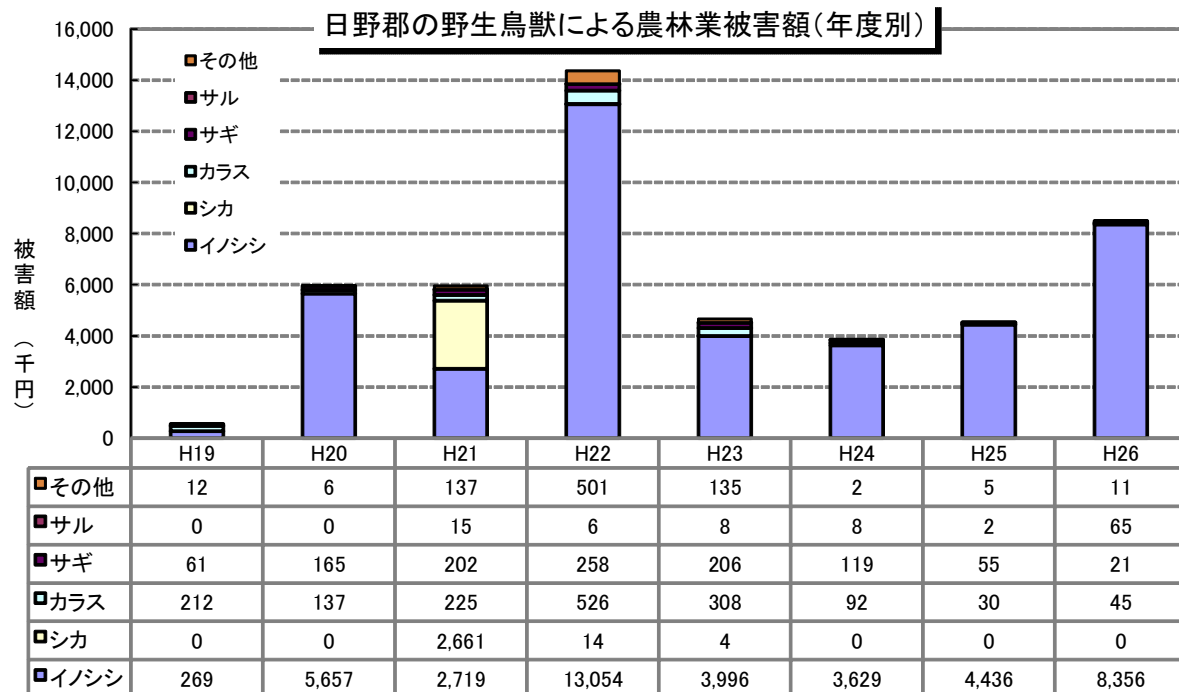
※日野振興局調べ(6月末調べ)

注) エコファーマーとは、持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律施行規則(平成11年農林水産省令第69号)に基づき、計画認定を受けた農業者をいう。

## (7) 鳥獣被害と対策

### ① 被害額

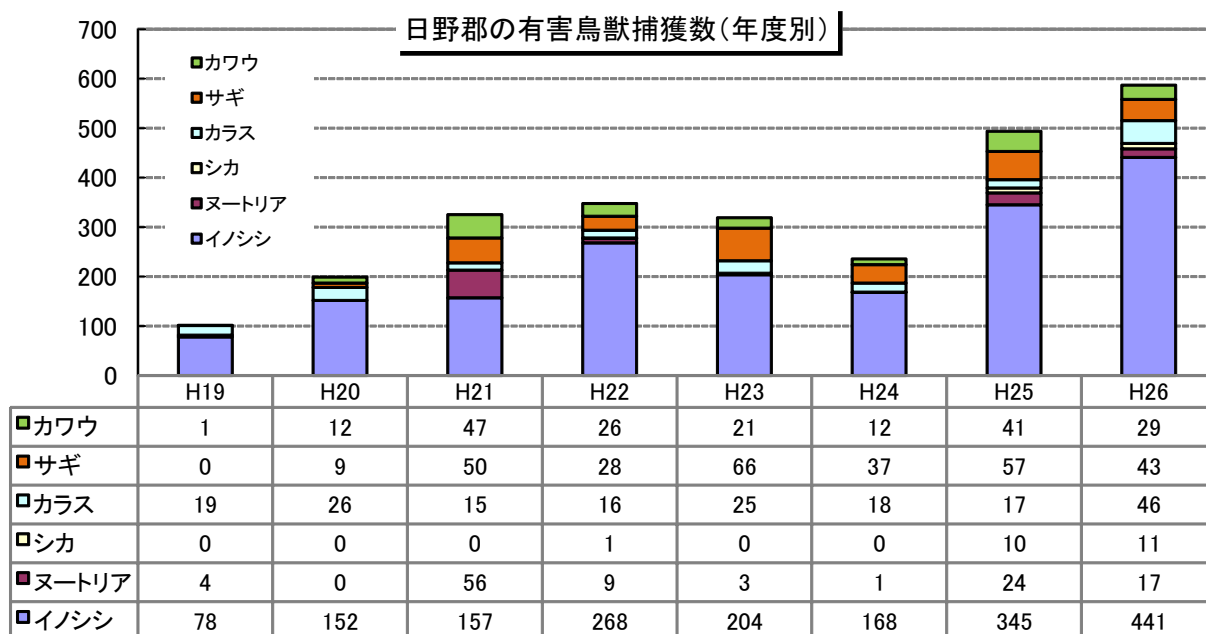
○日野郡内の野生鳥獣による農作物被害額は、平成22年に急増し14,000千円となったが、平成23～25年度は4,000千円～5,000千円で推移した。平成26年度は再び増加し8,500千円となった。被害のほとんどはイノシシの踏み倒しによる水稻の被害が占めている。



※日野振興局調べ

### ② 有害捕獲許可による捕獲数

○イノシシの捕獲数は平成19年以降増加し、平成26年は441頭と最も多かった。ヌートリアの捕獲数は平成21年の56頭捕獲をピーク以降減少していたが、平成25、26年に再び増加している。



※日野振興局調べ

**【参考データ】 農業産出額及び生産農業所得**

**(参考データ) 農業産出額及び生産農業所得**

	農業産出額(上段:億円、下段:%)						生産農業所得			
	米	野菜	果実	畜産	その他	合計	合計 (億円)	農家1戸当り (千円)	耕地10a当り (千円)	
平成16年 (日野郡)	14.9 (34)	6.7 (15)	0.1 (0)	21.1 (48)	1.6 (4)	44.4 (100)	14.2	548	52	
平成17年 (日野郡)	15.4 (36)	5.5 (13)	0.1 (0)	20.3 (48)	0.9 (2)	42.2 (100)	13.4	561	50	
平成18年	日南町	8.8 (32)	2.8 (10)	0.1 (0)	15.5 (56)	0.4 (1)	27.6 (100)	7.9	674	52
	日野町	2.1 (53)	0.5 (13)	0 (0)	1.3 (33)	0.1 (3)	4 (100)	1.5	270	35
	江府町	3.8 (51)	1.8 (24)	0 (0)	1.6 (21)	0.3 (4)	7.5 (100)	3	450	40
	郡計	14.7 (38)	5.1 (13)	0.1 (0)	18.4 (47)	0.8 (2)	39.1 (100)	14.2	594	52
	県計	160 (23)	169 (25)	77 (11)	220 (32)	59 (9)	685 (100)	218	622	61
	平成19年 (鳥取県)	148 (22)	182 (27)	84 (12)	217 (32)	51 (7)	682 (100)	220	629	62
平成20年 (鳥取県)	160 (23)	200 (28)	69 (10)	223 (32)	50 (7)	702 (100)	237	677	-	
平成21年 (鳥取県)	146 (22)	185 (28)	60 (9)	223 (34)	45 (7)	659 (100)	208	-	-	
平成22年 (鳥取県)	132 (20)	198 (30)	66 (10)	231 (35)	38 (6)	665 (100)	227	-	-	
平成23年 (鳥取県)	156 (23)	185 (27)	67 (10)	232 (34)	36 (5)	676 (100)	229	-	-	
平成24年 (鳥取県)	177 (26)	191 (28)	72 (11)	207 (30)	37 (5)	684 (100)	239	-	-	
平成25年 (鳥取県)	154 (23)	190 (28)	68 (10)	231 (34)	36 (5)	679 (100)	230	-	-	

出典:第53～58次、及び平成25～26年鳥取農林水産統計年報(中国四国農政局鳥取地域センター)  
 なお、第56次から市町村別データは非開示。

## 4 森林・林業の現状と取組

### (1)日野郡の森林の現状

○日野郡の林野面積は52,550haと総面積の87.9%を占めている。

○民有林のうちスギ・ヒノキ等の人工林は31,102haで、人工林率は62.1%である。

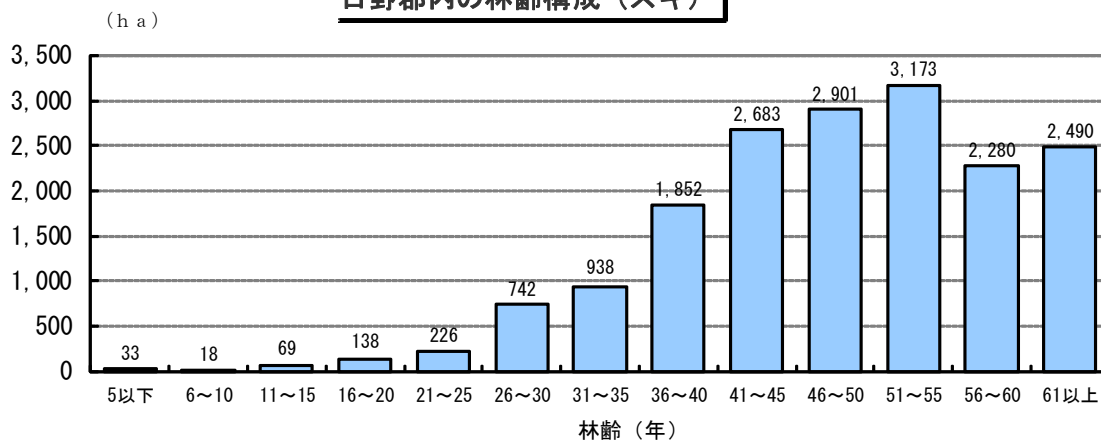
○スギ・ヒノキの人工林資源は7から12歳級に団塊的に存在しており利用間伐が進んでいるが、今後とも資源の有効活用が求められている。

単位：ha、%

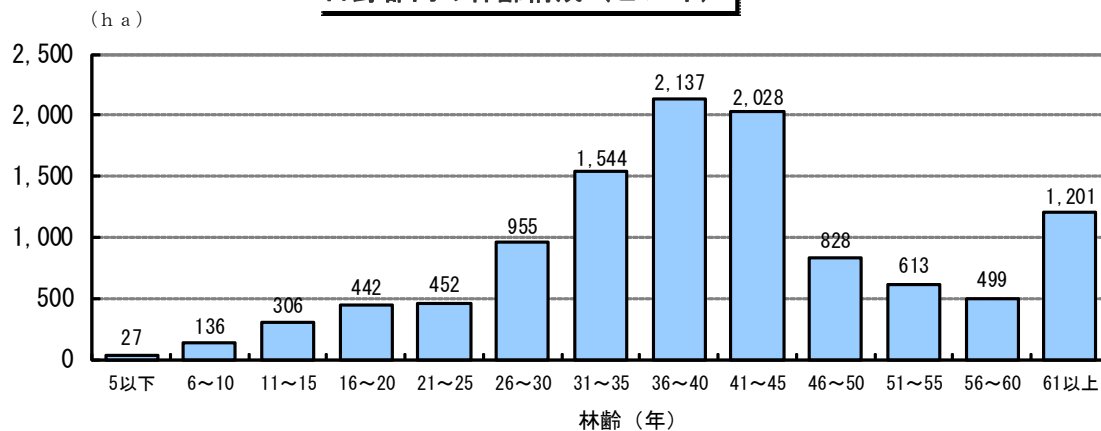
区分	土地面積	林野面積				民有林内訳			
		国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
日南町	34,087	1,311	29,124	30,435	89%	18,301	10,554	300	63%
日野町	13,402	375	11,647	12,022	90%	8,027	3,430	206	69%
江府町	12,466	870	9,223	10,093	81%	4,774	4,264	251	51%
局計	59,955	2,556	49,994	52,550	88%	31,102	18,248	757	62%
全県	350,728	31,366	227,358	258,724	74%	123,578	96,401	7,380	54%

※出典：平成26年度鳥取県林業統計

### 日野郡内の林齢構成（スギ）



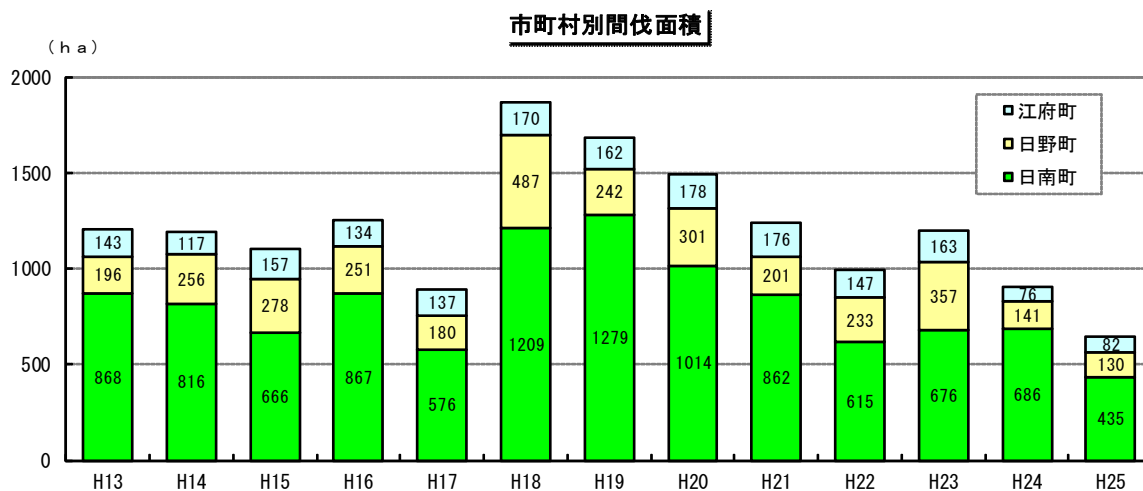
### 日野郡内の林齢構成（ヒノキ）



※出典：森林簿

## (2)間伐の推進

- 森林の適正な管理を確保するため、間伐の推進に取り組んでいる。
- 間伐材の有効活用を推進するため、平成13年度から「間伐材搬出促進事業」(単県)、平成25年度からは「間伐材搬出等事業」を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費に補助してきた。日野郡では、対前年比139%となる約7万m<sup>3</sup>の間伐材が搬出された平成23年度を契機として、その後は概ね同程度の間伐材が搬出されている。
- 「低コスト林業機械リース等支援事業」(国庫・単県)等を実施して搬出用機械の導入を支援し、搬出コストの低減を図っている。



※出典：平成26年度鳥取県林業統計

## 間伐材搬出等事業の実績

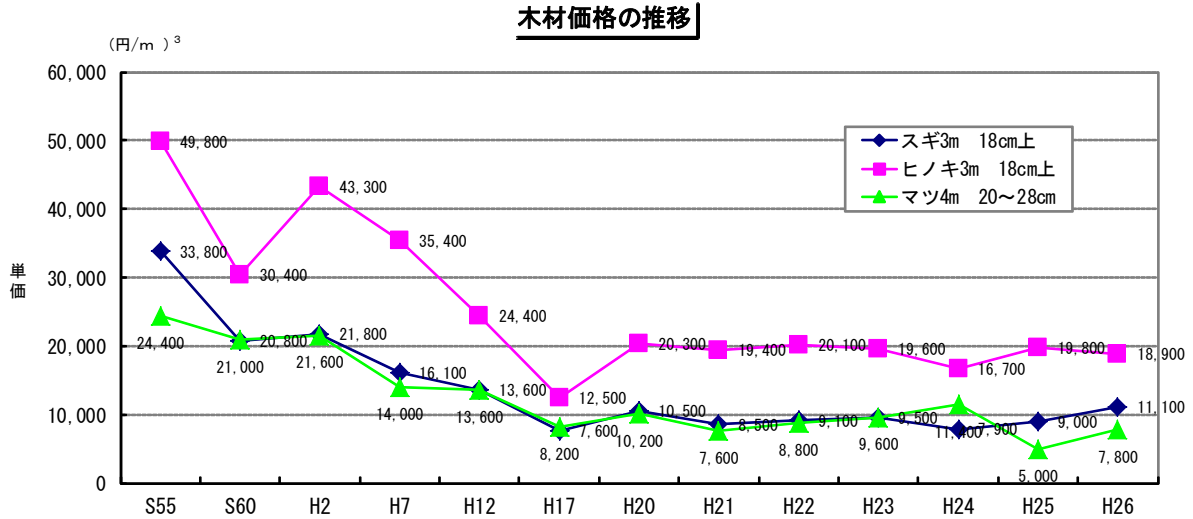
間伐材搬出等事業の実績		H13	H15	H17	H19	H21	H23	H24	H25	H26
日野郡	材積(m <sup>3</sup> )	21,585	31,030	19,101	25,489	43,383	70,890	63,862	64,637	65,102
	金額(千円)	92,816	133,430	82,136	101,956	169,192	269,383	242,676	228,724	209,409
	県内シェア(材積%)	63	70	63	60	50	46	46	41	34
全県	材積(m <sup>3</sup> )	34,212	44,173	30,485	42,226	86,600	154,120	139,186	159,068	192,162
	金額(千円)	147,111	189,941	131,086	168,905	337,739	585,653	528,734	561,573	616,972

※出典：農林業振興課業務資料 興課業務資料



### (3)木材価格の推移

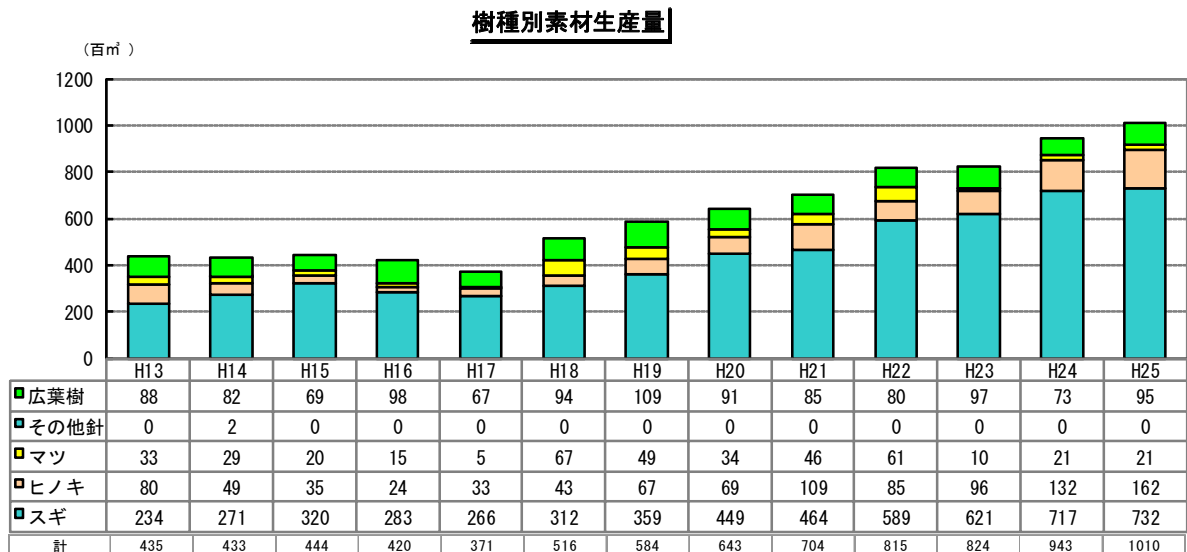
- 木材価格は最高値（昭和55年）の約1/3で推移している。
- 役物の需要減少により、価格が低迷している。
- 近年、針葉樹合板の原材料が外材から国産材にシフトするなどの傾向が進み、価格に底打ち感も見られたが、直近では、一般材の供給増、建築様式の変化や人口減少等による住宅着工戸数減の影響等を受け安値低迷が続いている。



※出典：平成26年度鳥取県林業統計

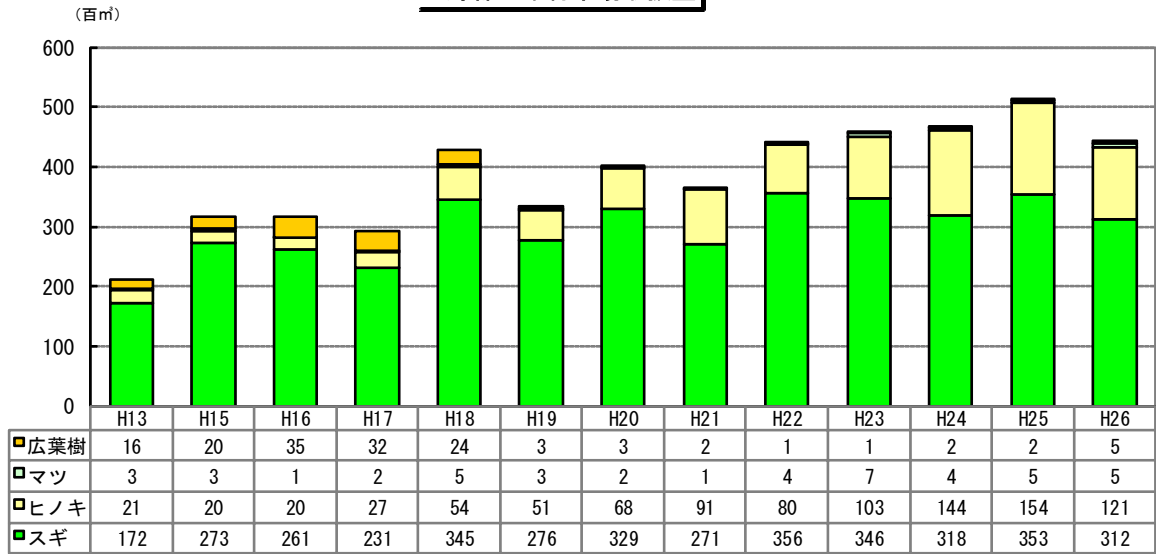
### (4)地域材の供給

- 引き続き材価の低迷を受けて、主伐(皆伐)を控える傾向に依然変わりはなく、間伐材の生産が中心となっている。
- 日野郡の素材生産量は、「造林事業」を活用した間伐、「間伐材搬出等事業」への積極的な取組により、平成18年度頃から年々増加しており、平成25年度には10万m³を上回った。
- 日野郡では、株式会社オロチ（LVL製造工場）への木材、株式会社日新への燃料の安定供給を目指し、市場を介さないで直接納入するなど、定価格、安定出荷の取組も見られる。



※出典：平成26年度鳥取県林業統計

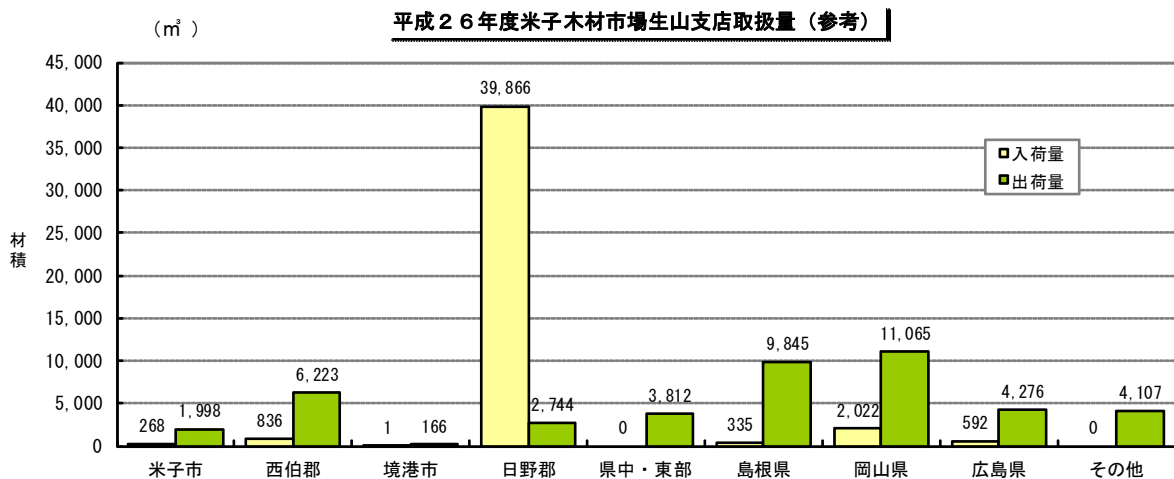
### 日野郡内木材市場取扱量



※出典：農林業振興課業務資料

#### (注) 日野郡内の原木の流れ

- 米子木材市場生山支店の原木取扱量は、樹種別ではスギ77%、ヒノキ20%、広葉樹2%、マツ1%で、圧倒的にスギが多い。入荷先の87%（H26）が日野郡であることがその理由である。
- 出荷先（買い方）としては、西伯郡（レングス）、日野郡（オロチ）もあるが、その多くは岡山県、島根県、広島県等の県外となっている。合板用として境港市（日新）へも出荷が始まっている。
- この様な中で、平成12年から南部町で協同組合レングスがスギの三層クロスパネルの生産を始め、平成20年からは日南町でオロチによりLVLの生産が開始されたことにより、日野郡内で生産された木材が、県内で高次加工され、県外へ出荷される体制が整備された意義は非常に大きいものがある。



※出典：日野振興局業務資料

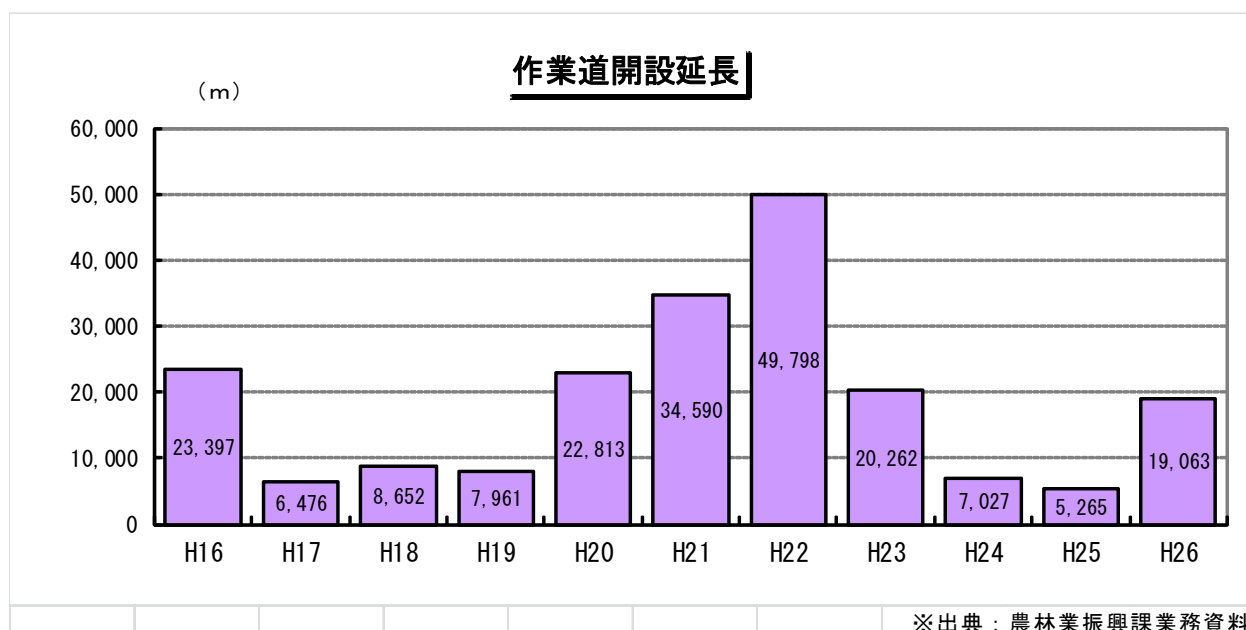
## (5)森林路網の整備

- 日野郡内では、路網整備の骨格となる森林基幹道3路線（宝仏山1号、宝仏山2号、窓山線）の開設を進めている。
- 「路網整備地域連携整備事業」（国庫）、林業再生事業（単県）等により、間伐など森林施業の推進や素材生産コストの低減に不可欠な作業路網の整備を進めている。

単位：m						
路線銘	位置	延長	事業費 (円)	工期	開設済延長 (H26末)	開設計画 (H27以降)
森林基幹道 宝仏山1号	江府町俣野 ～武庫	6,900	2,322,365	H元～H38	4,756	2,144
森林基幹道 宝仏山2号	日野町金持	7,990	2,058,278	H元～H38	4,269	3,721
森林基幹道 窓山線	日南町新屋 ～上萩山	17,233	4,323,960	H8～H41	8,373	8,860

○作業道は、平成22年度までは補助事業による10/10助成により延長が伸びており、平成23年度以降は開設延長が伸び悩んでいたが、補助事業を活用して鳥取式作業道を軸とした丈夫な道作りを推進し、平成26年度には事業量が伸びている。

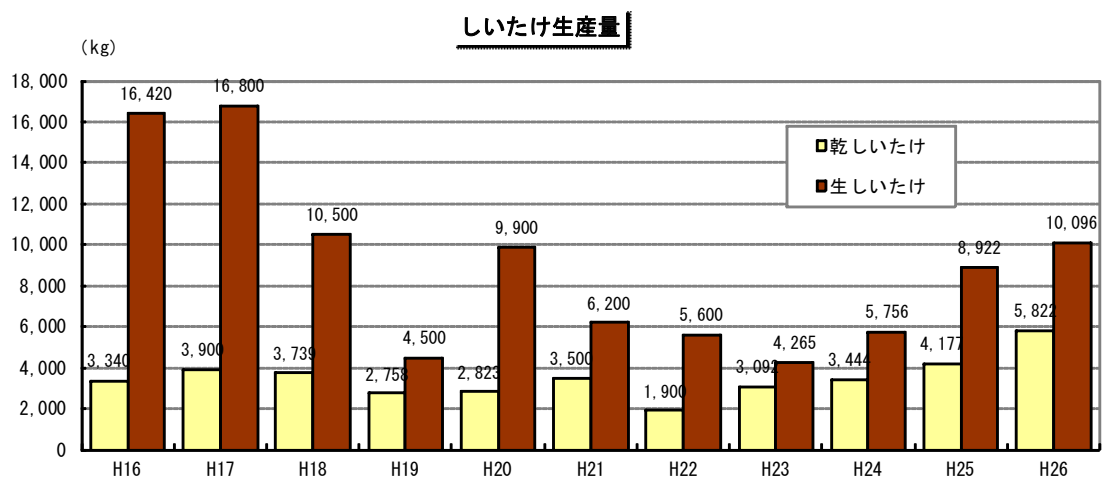
○また、幹線路網となる林業専用道の整備を推進しており、平成26年度には約9.9千メートルが開設されている。



## (6)しいたけの生産

○乾しいたけ生産は、近年の自然健康食品の嗜好の高まりなどを受け、比較的高値で安定して推移していたが、東日本大震災による風評被害により価格が下落した。また、生産者の高齢化と後継者不足、原木入手の困難化などから、生産量は停滞傾向にあったが、販売価格も持ち直しつつあり、徐々に増加している。

○生しいたけの生産量は、菌床栽培に企業が参入するなどの動きがあるものの、平成23年度までは減少傾向にあった。しかし、大口生産者の生産拡大、補助事業の導入により、平成24年度からは向上に転じている。



※出典：日野振興局業務資料

## 5 日野振興センター農林関係担当課 (平成27年11月現在)

